

浄水場運転管理業務委託

特記仕様書

令和 6 年度

南房総広域水道企業団

浄水場運転管理業務委託特記仕様書

(趣 旨)

第1条 発注者及び受注者は、本特記仕様書により大多喜浄水場の運転管理業務委託に係わる必要な事項を定めるものとする。

- 1 業務委託番号：浄委2024第8号
- 2 業務委託名：浄水場運転管理業務委託
- 3 業務委託場所：千葉県夷隅郡大多喜町小谷松500番地 大多喜浄水場 外21箇所
- 4 委託期間：令和7年4月1日より令和8年3月31日まで

(委託場所)

第2条 業務を委託する主な施設と設備は次のとおりとする。

なお、大多喜浄水場の2系混和池、2系フロック形成池及び2系沈殿池設備は更新工事中であるため、本業務の対象外とする。

- 1 大多喜浄水場 夷隅郡大多喜町小谷松500番地
- 2 場外施設
 - (1) 第1送水調整池 勝浦市台宿99番地の5
 - (2) 平塚追加塩素設備 鴨川市平塚2646番地の1
 - (3) 鋸南系加圧ポンプ場 鴨川市金束字柳作1021番地
- 3 注水制御工設備 夷隅郡大多喜町大字西部田字川島892番地
- 4 各給水地点
 - (1) 大多喜町 八声配水場 夷隅郡大多喜町八声1352番地の4
大多喜配水場 夷隅郡大多喜町新丁279番地
 - (2) いすみ市 須賀谷配水池 いすみ市須賀谷1293番地2
第2配水池 いすみ市岬町大字鴨根字桑ノ木谷1438番地
大原配水池 いすみ市大字新田1486番地
大寺配水池 いすみ市下布施1754番地1
 - (3) 御宿町 第3配水池 夷隅郡御宿町御宿台2804番地1
 - (4) 勝浦市 鵜原配水池 勝浦市鵜原字一本松2183番地の16
上植野配水場 勝浦市上植野800番地
 - (5) 鴨川市 石上配水場 鴨川市天津319番地
高鶴配水場 鴨川市畑1499番地の1
 - (6) 鋸南町 湯沢配水場 安房郡鋸南町横根192番地の1
 - (7) 南房総市 第6配水場 南房総市高崎698番地
千倉第2配水池 南房総市千倉町南朝夷字梶原作557番地の2
白浜浄水池 南房総市白浜町白浜7830番地
 - (8) 三芳水道企業団 宮本配水池 南房総市富浦町宮本432番地
出野尾配水池 館山市出野尾561番地の1

(委託業務の内容)

第3条 委託業務の内容は浄水場及び場外施設等の運転管理、保守管理並びに浄水場

内の環境整備業務とし、その概要は別紙（業務委託内訳書）のとおりとする。
ただし、業務委託内訳書に明記されない事項であっても、細部については業務着手後現場の状況等に応じ、発注者と受注者が協議を行ったうえで定めることとする。

（異常時の対応）

第4条 異常事態が発生した場合、また発生するおそれがある場合は次により対応することとする。

2 「大多喜浄水場緊急時の対応マニュアル」の「対応要領」による対応。

- (1) 風水害及び震災時
- (2) 管路事故時
- (3) その他の事故時

なお、休日・夜間等における初期対応として、発生現場に急行し状態を確認するとともに、特別業務員においては、被害を最小限にとどめる措置を行うこと。また、必要に応じ現場運転を考慮した業務体制を維持することとし、定期的に現場運転操作の習熟を図ること。

3 「水質汚染事故における緊急時対応マニュアル」の「状況判断・緊急措置」による対応。

4 受注者は、あらかじめ緊急災害に備えて支援体制を整えるものとする。また、その支援体制は速やかに浄水場へ招集できるように整えること。

5 発注者が緊急時の訓練を行う場合、受注者は業務員をその訓練に参加させるものとする。

（受注者の業務員）

第5条 受注者は業務遂行に当たり、次の要件を満たす技術者を適切に配置しなければならない。

2 現場代理人（委託業務の現場に常駐し、この契約の履行に関して現場の運営、取締り及び発注者との連絡調整を行う者をいう。ただし、現場代理人が研修、会議、急病及び夜間、休日等、現場に常駐できない場合は、発注者が事前に承認した代行者が従事することができるものとする。）は、次に掲げる要件を満たす者から選任し常駐させること。

- (1) この契約の履行に関して業務全体を総括できる職務能力を有する者
- (2) 表流水を水源とする日量30,000立方メートル以上の凝集沈殿急速ろ過方式による上水道の浄水場において3年以上の運転管理及び保守管理業務の経験を有する者

3 主任技術者は、次に掲げる要件のいずれかを満たす者から専任で配置すること。

- (1) 水道技術管理者資格を有する者
- (2) 水道浄水施設管理技士1級の資格を有し、表流水を水源とする日量30,000立方メートル以上の凝集沈殿急速ろ過方式による上水道の浄水場において3年以上の運転管理及び保守管理業務の経験を有する者

(3) 水道浄水施設管理技士2級の資格を有し、表流水を水源とする日量30,000立方メートル以上の凝集沈殿急速ろ過方式による上水道の浄水場において5年以上の運転管理及び保守管理業務の経験を有する者

(4) 上記(1)～(3)と同等以上の技術を有すると発注者が認める者

4 特別業務員（発注者の交替制勤務職員の勤務形態に加わり、発注者の交替制勤務職員（2人工）の代わりとして設備の運転状況を監視し、必要な操作及び調整の判断を行い、施設の適切な運転管理を行う者をいう。）は、次に掲げる要件をいずれか満たす者から選任し常駐させること。なお、勤務体制は別紙（令和7年度特別業務員勤務表）のとおりとする。

(1) 表流水を水源とする日量30,000立方メートル以上の凝集沈殿急速ろ過方式による上水道の浄水場において5年以上の運転管理及び保守管理業務の経験を有する者

(2) 「建築保全業務積算要領 表2.1 技術者区分」（国土交通省HP掲載 平成30年度版）で示す「保全技術員」と同等以上の技能・経験を有する者

(3) 上記(1)～(2)と同等以上の技術を有すると発注者が認める者

なお、特別業務員の各業務における要求水準については、別添「特別業務員要求水準書 第2章 業務の水準」のとおりとする。

5 受注者の業務員は、次に掲げる要件をいずれか満たす者でなければならない。ただし、半数の業務員については、水道浄水施設管理技士3級以上の者で、表流水を水源とする日量30,000立方メートル以上の凝集沈殿急速ろ過方式による上水道の浄水場において、運転管理及び保守管理業務の実務経験を3年以上有する者でなければならない。

(1) 水道浄水施設管理技士3級以上の者

(2) 表流水を水源とする日量30,000立方メートル以上の凝集沈殿急速ろ過方式による上水道の浄水場において運転管理及び保守管理業務の実務経験を3年以上有する者

(3) 学校教育法による大学、短期大学、高等専門学校、高等学校において電気又は機械に関する課程を修めて卒業した者

(4) 上記(1)～(3)と同等以上の知識・技能を有すると発注者が認める者

6 受注者は、業務の必要のうえから前項以外の業務員を大多喜浄水場に配置する場合は、発注者に届け出なければならない。また、新たな業務員に対して業務の遂行に必要な研修を計画し、実施しなければならない。

（法定資格者の届出）

第6条 受注者は本業務の遂行にあたり、関係法令に基づいた資格者の必要人員を発注者に届け出なければならない。

1 水道浄水施設管理技士（3級以上）

2 危険物取扱者（乙種第4類以上）

3 酸素欠乏危険作業主任者

4 クレーン運転特別教育及び小型移動式クレーン運転技能講習修了者

5 玉掛け技能講習修了者

- 6 特定化学物質等作業主任者
- 7 第2種電気工事士以上
- 8 その他労働安全関係に必要な資格者

(業務実施上の心得)

第7条 受注者は、浄水場及び場外施設の運転管理が水道法に基づいた重大な公共的使命及び特殊性のあることを念頭に置き、設備の運転操作及び点検整備に細心の注意を払うとともに、本特記仕様書、特別業務員要求水準書、業務委託契約書及び関係法令を遵守し、発注者の指示に従って誠実かつ適正に委託業務を履行しなければならない。

- 2 受注者の業務員は、委託業務に精通するよう常に技術の向上に努めなければならない。

(委託業務の勤務時間)

第8条 運転管理業務は契約期間中無休とし、交替制による常時24時間勤務とする。

なお、休憩時間についても交替制とし、昼勤務は休憩時間1時間、夜間勤務は休憩時間2時間とする。

- 2 毎日保守業務を除く保守管理業務の勤務を要する日は、平日（土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日及び12月29日～1月3日を除いた日。以下「平日」という。）及び、下表1の日とする。ただし、毎日保守業務員は契約期間中、毎日配置することとする。

表 1

令和7年度	5月 6日	12月30日	1月 3日
-------	-------	--------	-------

- 3 環境整備業務は月6回とする。

(追加業務)

第9条 災害防止、その他業務の必要が生じた場合は、発注者と受注者が協議を行ったうえで追加業務とする。

- 2 追加業務の算出の基礎となる勤務時間数は、当月期間における全時間数（追加業務価格を異にする部分があるときは、その異にする部分ごとに計算した時間数）によって計算するものとし、この場合において1時間未満の端数が生じたときは、その端数が30分以上のときは1時間とし、30分未満のときは切り捨てるものとする。

- 3 特別業務員に対し、勤務を要しない日において昼勤務が追加になった場合は、勤務した時間に相当する振替休暇を与えるものとする。

(契約時の提出書類)

第10条 受注者は、委託業務の契約を締結したときは、業務委託契約書の定めるもののほか以下の書類を発注者に提出しなければならない。

- (1) 着手届
- (2) 行政財産使用許可申請書

(3) 年間業務計画に係る書類

- ア 日常、非常時業務体制、緊急連絡体制のわかるもの。
- イ 安全衛生執行体制表（自由様式）
- ウ 業務履行計画書（自由様式） 月及び年間計画とする。
- エ 緊急連絡体制表（自由様式）
- オ 危機管理対応規範（自由様式）
- カ 業務委託契約書第2条及び特記仕様書第6条に係る業務員に関する届出書

業務に携わる者の氏名、住所、連絡先、略歴、資格を記載。

- キ 特別業務員名簿（第5条で示す要件が確認できるもの。）

(4) 腸内細菌検査結果報告書

(5) その他必要と認めるもの

- 2 受注者は、毎月の業務履行計画書を前月の25日までに発注者に提出しなければならない。
- 3 受注者は、前各項の提出書類に変更があったときは、速やかに書面により発注者に届け出なければならない。

(実施状況の報告)

第11条 受注者は、委託業務の実施状況について、発注者の指定する様式にて業務日報等及び月報（当月分業務完了報告書）を作成し、次のとおり発注者に提出しなければならない。ただし、発注者から業務変更の申し出があった場合は、その都度提出するものとする。

- (1) 業務日報等提出日時 翌日午前9時30分まで
- (2) 月報提出日 翌月5日まで

- 2 受注者は、発注者が特記仕様書に適合しないと認めて、委託業務の履行に関し必要な措置を要求した場合は、速やかに是正し発注者に報告しなければならない。
- 3 受注者は、業務遂行中に施設等の異常を発見した場合は、直ちに発注者に報告しなければならない。
- 4 受注者は、第9条の定めるところにより追加業務を実施した場合は、所定の様式に記載し、速やかに発注者に報告しなければならない。
- 5 受注者は、常に業務改善に努め、各年度末に改善内容を技術提案として発注者に報告しなければならない。

(施設の使用)

第12条 業務委託契約書第7条に定める事務室又は、休憩室等（以下「事務室等」という。）の使用に係る費用は、委託期間中無償とする。

- 2 事務室等の使用期間中、受注者の責任で汚損があった場合には、受注者の費用で直ちに修復しなければならない。
- 3 事務室等の使用に伴う光熱水の費用は無償とするが、その使用に当たっては節約に努めなければならない。

(貸与及び支給品)

第13条 発注者が受注者に、無償で貸与又は支給する物品（以下「貸与品」又は、「支給品」という。）は、それぞれ次のとおりとする。

なお、貸与品の使用範囲、使用方法等については、発注者の確認を受けなければならない。

- (1) 貸与品 大多喜浄水場に備え付けてある業務上必要な備品、機材、保守工具等
- (2) 支給品 業務上必要な薬品類、油脂類、補修用部品及び消耗品。（事務用品、作業衣、その他受注者の業務員に係るものを除く。）
- (3) 前号の貸与品及び支給品の補充は、受注者の責に帰すべき理由によるものを除き、発注者がこれを行う。
- (4) 前(1)～(3)に定めるもののほか、貸与品及び支給品の使用条件は、業務委託契約書第8条に定めるところによる。

(安全及び衛生管理)

第14条 受注者は当該業務員を対象に、水道法、関係法令等で定める定期及び臨時の健康診断及び腸内細菌検査を実施するものとし、その費用は受注者の負担とする。

また、受注者は上記健康診断及び腸内細菌検査の結果を記録し、整理保管するとともに、発注者あるいは関係機関より提示の要請があったときは、速やかにその要請に応じなければならない。

なお、腸内細菌検査は業務着手の直前に第1回目を行い、その後はおおむね6か月ごとに実施するものとし、検査結果を監督職員に提出しなければならない。

- 2 受注者は、関係法令に基づく安全及び衛生を確保しなければならない。
- 3 受注者の責任による損害賠償、労働災害時の労災保険の適用は、受注者の責任で行う。

(賠償責任)

第15条 受注者の故意又は重大な過失によって生じた事故等の場合、その賠償責任は、受注者が責めを負うものとする。

- 2 発注者及び受注者の責に帰すべき事由による事故が発生した場合、その賠償責任の過失割合は、発注者と受注者が協議を行ったうえで定めるものとする。

(管理施設の補修)

第16条 受注者が管理業務を行う施設等（以下「管理施設」という。）の補修は、発注者が行うものとする。ただし、軽微な補修については、双方合意のうえ受注者に行わせることができるものとする。なお、その場合の必要な機材等については発注者が支給するものとする。

(管理施設の災害予防)

第17条 受注者の業務員は、管理施設の災害予防に努めなければならない。

(車 両)

第18条 受注者は、業務を円滑に遂行するため業務に必要な車両を用意し、これを使用するものとする。また、これに係る経費は受注者の負担とする。

(通 信)

第19条 受注者は、委託期間中は通信用電話を設置し、その使用料を負担するものとする。

(書類の保管)

第20条 受注者は、業務遂行上作成した書類を契約期間中保管しなければならない。

2 前項の書類は、発注者の許可なく外部に持ち出し、又は他人に閲覧させ、複写させ、又は譲渡してはならない。

(厳守事項)

第21条 受注者の業務員が当該業務に勤務中は、発注者の職員と識別でき、安全で作業性と清潔感のある作業服を着用しなければならない。

2 受注者の業務員に対して業務上必要かつ有効な教育（職場内外の研修等）、安全衛生教育、健康管理、労働災害時の処置は、受注者の責任で行うこと。

3 勤務中に建物、工作物、物品類、立ち木等に損傷を与えた場合、あるいは誤操作等による災害、天災、事故、その他不測の事態が発生した場合は、直ちに発注者に報告すること。勤務中に損害、損傷あるいは遺失物を発見した場合も同様とする。

4 受注者の業務員は、諸設備の監視に努め、平常時の状態を的確に掌握し、初期の異常発生に対応することで、水の安定供給に努めなければならない。

5 設備機器の保守管理等の作業に当たり、管理施設の運転に支障のないように工程等の調整を行うこと。

6 作業を行うときは、事故防止に努め、安全を最優先すること。

7 管理施設内の掲示物、展示物を無断で撤去してはならない。また、発注者の許可なく事業関連ポスター他等の掲示をしてはならない。

8 職務に関係のない書類、書籍等の閲覧をしたり、物品の持ち込み、持ち出しをしてはならない。

9 職務上知り得た情報を漏らしてはならない。

10 勤務中は、私語を慎み職務に専念すること。

11 発注者の了解を得ずに、部外者を管理施設内に入れてはならない。

12 火気の使用には特に注意し、火災予防上支障のある行為を行ってはならない。

13 受注者の業務員が休憩、食事をとる場所は作業員用控室とし、みだりに飲食等は行わず、受注者が業務委託履行のために定めた時間を厳守すること。

14 職務範囲となる施設、設備、機器、備品等は、常に清潔を保ち、整理整頓を

心がけること。

- 1 5 運転操作日報、月報等の資料や書類、書籍類は、施設管理運用のための基礎資料であり、その取扱いは厳正を期すものとする。

また、上記資料は発注者の許可なく外部へ持ち出してはならない。

- 1 6 発注者の許可を受け施設、建物等を使用し、当該施設が契約の終了等により使用の目的をなくしたときは、原状に復し、発注者の検査を受け、所定の期日までに返還すること。

(研修)

第22条 受注者は、本業務を初めて受注する場合、発注者から環境整備を除く全ての業務について研修に協力しなければならない。また、本業務を終了する場合は、次期受注者の研修を行わなければならない。

- 2 受注者は、本業務を初めて受注する場合の研修に必要な仮設事務所の設置、休憩室等の利用並びに光熱水の使用について、発注者の承諾を得なければならない。また、発注者はこれに協力しなければならない。

- 3 研修期間は、3ヶ月を基本として実施する。ただし、業務内容により発注者が認めた場合は、短縮できるものとする。

- 4 受注者は、研修期間を終了しようとする場合、発注者の承諾を得なければならない。

- 5 研修に要する全ての費用は、受注者の負担とする。

(道路使用許可申請)

第23条 本業務に必要な道路使用許可申請の手続きは受注者が行うものとし、その費用は受注者の負担とする。

(その他)

第24条 この仕様書に定めるもののほか、受注者の行う業務は水道法その他の関係法令、規則等並びに日本水道協会発行の「水道維持管理指針」に基づいて行うものとし、本特記仕様書に定めのない事項、又は本特記仕様書について疑義が生じた事項については、必要に応じ、発注者と受注者が協議を行ったうえで定めるものとする。

別紙（第3条）

〔業務委託内訳書〕

1 総 則

この内訳書は、浄水場運転管理業務委託特記仕様書第3条に基づき委託業務内容について定めるものである。ただし、細部については、業務を行いながら現場の状況等により随時協議するものとする。

2 運転管理業務

大多喜浄水場、場外施設（導水・送水管路、10箇所の緊急遮断弁、第1送水調整池、平塚追加塩素設備、鋸南系加圧ポンプ場、注水制御工設備、17箇所の給水地点設備）の運転管理業務は次のとおりとする。

詳細な内容については別冊「大多喜浄水場並びに場外無人設備の運転管理指針」に則り行わなければならない。

なお、受注者の特別業務員が当該業務中に災害や事故等が生じた場合、被害を最小限にとどめる措置をするとともに、直ちに発注者と協議し、対応するものとする。

- (1) 浄水場水処理施設の運転操作及び監視【常時】
- (2) 浄水場内の建物付帯設備の運転操作及び監視【常時】
- (3) 場外施設の遠方操作及び監視【常時】
- (4) 残塩測定（ろ過水、浄水、安房系送水、夷隅系送水の各試料水）【毎日1回】
- (5) 管理送水【毎日】
- (6) 安房系、夷隅系各送水ポンプ切替【週1回】
- (7) 後次亜塩定期注入【週1回】
- (8) 2次PAC定期注入【週1回】
- (9) コンデンサ切替【月1回】
- (10) 鋸南系加圧ポンプ切替【2週1回】
- (11) 第1送水調整池、平塚追加塩素設備の次亜塩圧送ポンプ切替【2週1回】
- (12) 硫酸注入機切替【月1回】
- (13) 特別業務員指定業務【特別業務員の勤務を要する日に限る。】別紙（1）
- (14) その他協議による浄水場の運転監視に必要な業務

3 保守管理業務

保守管理業務の内容は次のとおりとする。詳細な点検項目、各設備に付帯する機器の整備・修繕内容については別冊「保守管理並びに整備基準表」に則り、計画的に行わなければならない。

(1) 場内保守管理

浄水場施設の保守管理は次のとおりとする。

- ア 場内巡視点検【毎日】
- イ 場内各設備の施錠及び柵の異常確認【毎日】
- ウ 天日乾燥床の上澄水排水【毎日】
- エ エアチャンバ用コンプレッサ予備機切替【週1回】
- オ 夷隅系エアチャンバ排気弁動作確認【週1回】
- カ 系統連絡用減圧弁切替【週1回】
- キ 水質計器点検【週1回】

- (ア) 濁度計点検校正[原水、混和水、沈殿水、ろ過水、浄水]
- (イ) 電気伝導率計点検校正[原水]
- (ウ) 残塩計点検校正[ろ過水、浄水、安房系送水、夷隅系送水]
- (エ) pH計点検校正[原水、着水、混和水、沈殿水、ろ過水、浄水]
- (オ) アルカリ度計点検校正[原水、沈殿水]
- (カ) UV計点検校正[原水、ろ過水]
- (キ) 色度計点検校正[原水、ろ過水]
- (ク) 試薬作成[KCL液、pH標準液(4.01、6.86)]
- (ケ) 脱泡槽の清掃[原水、着水、混和水、沈殿水、ろ過水、浄水、安房系送水、夷隅系送水]

ク 自家発電設備の点検、試運転

- (ア) 自家発電設備の点検、試運転（自家発電機棟）【月1回】
- (イ) 自家発電設備の点検、試運転（送水設備）【月1回】

ケ 場内設備点検【月1回】

- (ア) 薬品注入設備
- (イ) 活性炭注入設備
- (ウ) 着水設備
- (エ) 沈殿池設備
- (オ) ろ過池設備
- (カ) 送水設備
- (キ) 排水池・排泥池設備
- (ク) 濃縮槽設備
- (ケ) 管理本館設備

コ クレーン点検【月1回】

- (ア) 活性炭設備
- (イ) 送水設備

(2) 場外保守管理

場外施設の点検は次のとおりとし、点検の都度、各施設の施錠及び柵の異常確認を実施することとする。なお、点検順路は以下のク項を原則とし、点検頻度は点検順路毎に隔週1回とし、最低、週3日は点検日を設けることとする。（※ク点検順路(サ)は月1回とする。）

ア 施設点検

- (ア) 第1送水調整池
- (イ) 平塚追加塩素設備
- (ウ) 鋸南系加圧ポンプ場

イ 注水制御工設備点検

ウ 給水地点点検

- (ア) 大多喜配水場（大多喜町）
- (イ) 八声配水場（大多喜町）
- (ウ) 須賀谷配水池（いすみ市）
- (エ) 第2配水池（いすみ市）

- (オ) 大原配水池 (いすみ市)
- (カ) 大寺配水池 (いすみ市)
- (キ) 第3配水池 (御宿町)
- (ク) 鶴原配水池 (勝浦市)
- (ケ) 上植野配水場 (勝浦市)
- (コ) 石上配水場 (鴨川市)
- (サ) 高鶴配水場 (鴨川市)
- (シ) 湯沢配水場 (鋸南町)
- (ス) 第6配水場 (南房総市)
- (セ) 千倉第2配水池 (南房総市)
- (ソ) 白浜浄水池 (南房総市)
- (タ) 宮本配水池 (南房総市)
- (チ) 出野尾配水池 (館山市)

エ 導水管路巡視点検

- (ア) 浄水場～注水制御工設備

オ 送水管路巡視点検

- (ア) 夷隅系管路

本線、大多喜八声線、大多喜新丁線、夷隅線、岬線、大原線、大寺線、御宿線

- (イ) 安房系管路

本線、勝浦鶴原線、勝浦上植野線、天津小湊線、鴨川線、鋸南線、富山線、朝夷線、白浜線、三芳線、館山線

カ 緊急遮断弁点検【月1回】

- (ア) 第1送水調整池 K V

- (イ) 送水管路 K 1～K 9

キ 電気防食装置点検

- (ア) 第1送水調整池

- (イ) J R 外房推進管

- (ウ) 細田水管橋

ク 点検順路

- (ア) 浄水場～注水制御工（導水管路点検を含む。）～大多喜配水場（大多喜町）
～第3配水池（御宿町）～大寺配水池（いすみ市）～大原配水池（いすみ市）
～第2配水池（いすみ市）～須賀谷配水池（いすみ市）～浄水場【往復92km】
- (イ) 浄水場～第1送水調整池～平塚追加塩素設備～浄水場【往復107km】
- (ウ) 浄水場～八声配水場（大多喜町）～天津小湊分岐点～湯沢配水場（鋸南町）
～鋸南系加圧ポンプ場～高鶴配水場（鴨川市）～浄水場【往復141km】
- (エ) 浄水場～三芳分岐点～千倉第2配水池（南房総市）～白浜浄水池（南房総市）
～出野尾配水池（館山市）～浄水場【往復186km】
- (オ) 浄水場～鋸南分岐点～第6配水場（南房総市）～宮本配水池（南房総市）
～浄水場【往復167km】
- (カ) 浄水場～上植野配水場（勝浦市）～石上配水場（鴨川市）～鶴原配水池（勝

- 浦市)～浄水場 【往復79km】
- (キ) 浄水場～第1送水調整池～浄水場 【往復42km】
- (ク) 浄水場～平塚追加塩素設備～浄水場 【往復105km】
- (ケ) 浄水場～第3配水池(御宿町)～浄水場 【往復45km】
- (コ) 浄水場～白浜浄水池(南房総市)～浄水場 【往復152km】
- (サ) 浄水場～K1～K2～K3～K4～K5～K6～K7～K8～K9～浄水場 【往復145km】

(3) 整備及び修繕業務

ア 日常整備業務

イ 定期点検・修繕業務

(4) 定期外業務

不定期となる業務は次のとおりとする。

ア 薬品の受入〔粉末活性炭、硫酸、硫酸アルミニウム、ポリ塩化アルミニウム、塩、苛性ソーダ〕【年約180回】

イ 活性炭溶解作業【年約350回】

ウ 活性炭接触池(1池)の清掃【年1回】

エ 排水池(2池)の清掃【年1回】

オ 活性炭注入配管の清掃【年1回】(企業団の指示による。)

カ 不良箇所の補修、予備品との交換作業

キ 各種工事に関わる補助作業

ク その他協議による業務

4 環境整備業務

環境整備業務は月6回実施し、場内の環境美化に努めること。なお、保守管理業務を優先して行うこととする。

- (1) 浄水場内及び進入路、排水溝及び設備周辺の落葉等の定期的な清掃
- (2) 浄水場内の除草作業